

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	鳥栖市立弥生が丘小学校
1 前年度 評価結果の概要	・算数科の研究授業等を通して、学業指導の充実、分かる授業の推進がなされてきたので、継続していく。 ・教職員の交通加害事故、交通違反が多く、交通事故防止の徹底が図られていない。
2 学校教育目標	自ら学び、やさしく、たくましく生きる「弥生っ子」の育成
3 本年度の重点目標	①心・学び・健康のプロジェクトを「凡事徹底」で実践化に努める。 ②服務規律保持に努める。 ③小中一貫教育の充実に努める。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○校内研究の充実 ○学習基盤の確立と学業指導の充実	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教員80%以上 ○算数科を中心として教科における学力(活用力)向上を図る。	・分かったことを論理的に説明したり、書いたりする活動を授業に取り入れることで、活用力向上をめざす。 ・算数科の研究授業等を通して、学業指導の充実、分かる授業について研修を深める。 ・各種調査、テスト等の誤答を分析して、教育課程、授業改善に反映する。	B	・マイプランの成果指標を達成状況について1月に教員アンケートを行う。 ・算数アンケートで自分の考えを話したり、書いたりしていると肯定的に書いた児童は78%。 ・全学年、新学習指導要領の3つの柱を意識した授業実践を行い、授業研究会を実施した。 ・1月末に佐賀県学習状況調査の誤答分析の研修を行う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○人権教育の視点を持った学級経営を推進すること、自己肯定感や自尊感情を高めていく。 ○平和集会に全校で取り組むことで、その後の平和アンケートの数値を高めたい。 ○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・学級経営や授業を取り組む中で、児童一人一人を大切に指導や支援に心がける。 ・平和への思いを高めるために平和に関する事前指導を行い主体的に集会に参加できるようにする。 ・言葉の使い方の指導を徹底し、未然防止に努める。また、2か月に1回は、アンケートを実施し、実態把握を確実に行う。 ・職員連絡会において気になる児童の情報共有を行う ・事案発生時は、教育委員会への報告と共に関係した児童への指導及び支援、保護者への連絡等を実施する。	B	・平和集会(なかよし集会)では、自他を大切にすることを育むために、各クラスでなかよし宣言を行い、学年ごとの発達段階に沿った人権教育に繋げることができた。 ・職員連絡会において、気になる児童の情報を全職員が共有することで、一貫した指導を行うことができた。また、アンケート等から得た情報を元に、保護者との連携を早めに取り組むことができた。	B	・めざす子どもの姿の1つ「やさしく助け合う子」をもとに具体的な場面や姿について指導しながら、学校運営、学級経営を進めてきた。児童も意識しながら学校生活を送ることができている。 ・気になる児童の1年間の変化について職員が情報共有をし、来年度のスタートを見据えた指導の在り方について意識を統一した。いじめに係るアンケートを実施し、些細な事案についても、児童への聞き取りを行い、保護者等との早めの連携を図った。	A	・保護者の98%が、子供たちは優しさと思いやりを持って友達と仲良くしているとの回答だった。学校がめざす子どもの姿「やさしく助け合う子」が少しずつ増えていると思う。 ・毎月10日の「いじめ・いのちを考える日」は、命の大切さや他を思いやることを学校全体で取り組んでいる。これを続けることが重要である。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ○望ましい生活習慣の形成と食育の推進	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童を60%以上 ○早寝、早起き、朝ごはんの習慣化できた児童を80%以上 ○給食の残菜率を6%以下	・新体力テストの経年比率を通して、体力向上プランを作成する。 ・望ましい運動習慣の定着を図ると共に、スポーツチャレンジへの参加を促す。 ・基本的な生活習慣を身に付け、健全な心身の発育や発達を促す。 ・給食、食育指導の充実を図る。	C	・新型コロナウイルス感染症の影響で、自粛期間が長く続いたため、運動やスポーツをする時間が例年より減っている。児童が自ら体を動かす機会を意識して作っていきたい。 ・保健便りでは、基本的な生活習慣の大切さを伝えた。 ・1年生では、担任と栄養教諭のTTで、望ましい食生活についての授業を行った。	B	・新型コロナウイルス感染症の影響で、新体力テストの実施やスポーツチャレンジへの参加はできなかったが、なわとび大会の実施、なわとび台の設置により、外に出て体を動かす児童数は、以前よりも増加した。 ・保健室入室者には、睡眠時間、排便、朝食について尋ね、個別に指導を行った。 ・給食、食育指導を継続した結果、給食の残菜率は3%以下になった。	B	・保護者の83%が、子供たちは運動したり遊んだりして、体を十分動かしているとの回答であったが、新型コロナウイルスの影響から、子供たちが転倒して顔を打つなどのけがが目立った。 ・朝食習慣はだいたいできているが、夜更かしをして朝が起きられないこともあるので、就寝時刻を早めにかきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 ○定時退勤日(金曜日)の徹底	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○定時退勤日に18時以降施設する日を5月からゼロにする。	・通常の施設時刻を昨年度よりも早め、退勤時刻を意識した働き方を徐々に定着させていく。 ・保護者や地域への周知と共に教職員には、定時退勤日を掲示物や配布物等で強く意識させ、行動化させる。	B	・退勤時刻19:00を意識して職員が計画的に業務を推進するようになってきた。また、18:00から留守電機能にしたことで遅い時刻までの保護者対応が少なくなった。 ・定時退勤日を金曜日の18:00に設定し、掲示や呼びかけもしたが、18:00の意識が足りず、時間が守れないことが多かった。	A	・それぞれの職員が業務の効率を工夫しながら進めたことで、退勤時刻19:00がほぼ達成できるようになってきた。 ・引き続き金曜日の定時退勤18:00を呼びかけ、職員室全面黒板に「定時退勤18:00」を掲示したので、ほぼ達成できるようになってきた。	B	・18:00で留守電機能になり、心がけているが間に合わないこともある。翌日で済むこともあるが、急ぐときは少し困ることもある。 ・先生たちも忙し、なかなか早く帰宅できないだろうが、帰れるときは早く帰ってリフレッシュをして子供たちの指導に頑張ってもらいたい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率50%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率50%以上	・年間指導計画の作成 ・実践事例集をもとに、授業作り、教具の検討。 ・参観日の際、授業を公開する。 ・学級通信、学年通信で教科「日本語」の取り組みを紹介する。	B	・12月の授業参観では、「日本語」の授業公開を11クラスで行った。 ・学級通信で「日本語」の授業内容を紹介している。
○不登校傾向や問題行動等への対応	○問題行動の未然防止及び迅速な対応	○学校生活アンケート「学校は楽しい」の設問に「そう思う」「やや思う」の割合を合計87%以上にする。	・校内体制を整え、学期1回以上、検討会や支援会を設ける。また、保護者には、支援的な立場での相談体制を受け付けて、問題の早期解決につなげる。 ・生徒指導連絡会による学校全体の情報共有と指導の統一を行う。	B	・不登校傾向の児童に対して、担任、不登校対応加配教員、通級指導教室担当が連携した取組ができている。 ・問題行動について担任、学年、生徒指導、養護教諭、管理職と外部関係機関とも連携することができている。	B	・不登校の児童に対して、担任、不登校対応加配教員、通級指導教室担当が連携した取組ができた。 ・問題行動については、担任だけでなく学年、管理	A	・保護者の96%が子供たちは楽しい学校生活を送っているとの回答であった。今後も子供たちが、楽しく、元気に安心して通える学校を目指してほしい。
○服務規律保持	○交通加害事故の防止 ○危機管理意識の向上	○交通加害事故、交通違反を0件にする。 ○全職員が危機管理マニュアルを即座に見ることができるようにする。	・服務規律に関する通知文の周知を確実に。同時に、毎月、職員会議で交通事故発生状況の事実説明をして、交通事故防止への意識を高める。 ・校内研修会を実施し、危機管理意識を高める。	B	・交通被害事故は3件あったが加害事故、交通違反は起きていない。 ・月に1回、危機管理マニュアル、「信頼される教職員であるために」を利用した研修を行った。	B	・交通被害事故は4件だった。回避できない事故もあったが、より慎重であれば回避できたので、さらに意識を高めていきたい。 ・コロナ感染症対策は定着している。	A	・保護者の93%が学校は避難訓練や新型コロナ対策、登下校など安全面に配慮しているとの回答だった。

●…県共通 ★…鳥栖市共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	○今年度は、コロナ感染症のために活動の中止、縮小が相次いだ。そんな中でも工夫をしながら学校教育目標の実現に向けて取り組んできた。その工夫は視点を換えれば、学力向上のヒントになったり、業務改善につながるものが分かってきた。そこで、次年度は重点目標について以下のように取り組んでいきたい。 ①「心・学び・健康のプロジェクトを「凡事徹底」で実践化に努める」ことについて、「心」「学び」「健康」を観点として共通理解を図りながら、全職員が組織の一員として、学校、学年、学級経営等に取り組めるようにさらに努めていく。 ②「服務規律保持に努める」ことについて、全職員が一体となって、教育の質の向上、服務規律保持等について互いに声を掛け合いながら努めてきたので、これからは継続して取り組んでいく。 ③「小中一貫教育の充実に努める」ことについて、コロナ感染症のため今年度はあまり交流ができなかったが、来年度の発表に向けて、オンラインが可能になったことを活用しながら活発に連携を深めていきたい。
--------------------	--